

# 2015年3月期決算説明会

2015年5月12日  
株式会社電通国際情報サービス

## AGENDA

### 第1部 2015年3月期決算概況、 および2015年12月期業績予想について

取締役 専務執行役員  
上原 伸夫

### 第2部 中期経営計画進捗状況

代表取締役社長  
釜井 節生

## 2015年3月期決算概況

- 3 -

### (1)2015年3月期 連結業績

(単位：百万円)

	2015年3月期	前期との比較			＜参考＞2014/5/12発表予想との比較		
		前期	増減額	増減率	予想	増減額	増減率
売上高	78,267	73,970	+4,297	+5.8%	76,200	+2,067	+2.7%
売上総利益	22,364	22,571	▲207	▲0.9%	-	-	-
売上総利益率	28.6%	30.5%	▲1.9p	-	-	-	-
販管費及び一般管理費	17,886	18,261	▲375	▲2.1%	-	-	-
営業利益	4,478	4,309	+169	+3.9%	4,500	▲22	▲0.5%
営業利益率	5.7%	5.8%	▲0.1p	-	5.9%	▲0.2p	-
経常利益	4,966	4,766	+200	+4.2%	4,670	+296	+6.3%
当期純利益	2,166	2,871	▲705	▲24.6%	2,960	▲794	▲26.8%

売上高

4期連続増収かつ過去最高売上高～金融、インタープライズが拡大

営業利益・経常利益

5期連続増益～ソフトウェア製品開発の原価増ならびに円安による仕入原価増があったものの、増収効果と販管費の減少で吸収

当期純利益

減益～三鷹データセンターのサービス終了に伴う特別損失を計上

- 4 -

## (1)-2 営業外損益・特別損益

(単位：百万円)

	2015年 3月期	前期との比較		
		前期	増減額	増減率
営業利益	4,478	4,309	+169	+3.9%
営業外収益	526	527	▲1	▲0.2
営業外費用	38	70	▲32	▲45.7
経常利益	4,966	4,766	+200	+4.2%
特別利益	356	-	+356	-
特別損失	1,265	94	+1,171	-
税金等調整前 当期純利益	4,057	4,672	▲615	▲13.2%
法人税等	1,880	1,793	+97	+4.9%
少数株主利益	10	6	+4	+66.7%
当期純利益	2,166	2,871	▲705	▲24.6%

### <特別利益>

投資有価証券売却益	209
関係会社出資金売却益	147

### <特別損失>

事業構造改善費用	1,265
(内訳)	
減損損失	988
事業構造改善引当金繰入	277

## (2) 営業利益の増減要因【前期比】

(単位：億円)

営業利益  
43.0

### 売上総利益の減少

- 増収効果 (+13)
- 受託システム開発を中心とした利益改善 (+2)
- ソフトウェア製品の開発原価増 (▲12)
- 円安によるソフトウェア仕入原価増 (▲5)  
(原価計上レト FY13 : 95円/\$ → FY14 : 104.4円/\$)

▲2

### 販売管理費の減少

+3.7

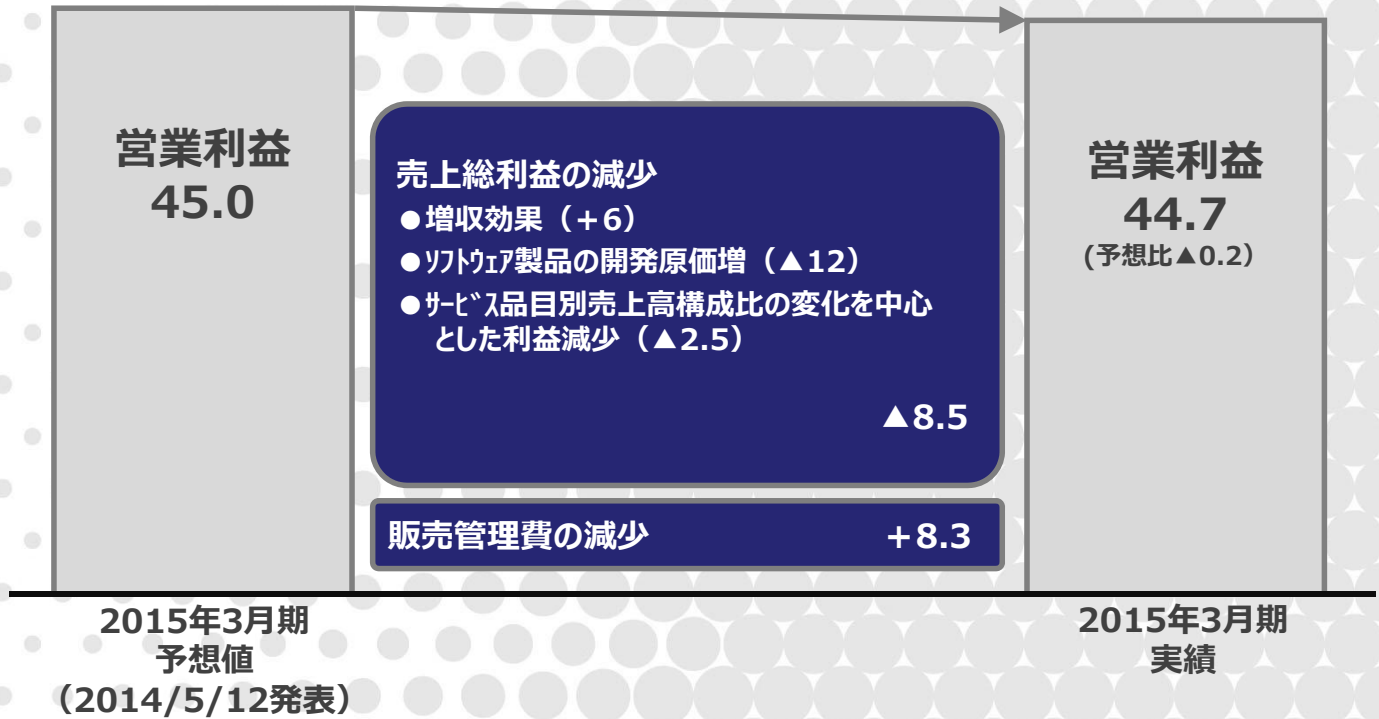
営業利益  
44.7  
(前期比+1.7)

2014年3月期  
実績

2015年3月期  
実績

# <参考> 営業利益の増減要因【予想比】

(単位：億円)



## (3)事業セグメント別 連結売上高

(単位：百万円)

事業セグメント	2015年3月期	前期との比較			<参考> 2014/5/12発表予想との比較		
		前期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューション	24,086	22,262	+1,824	+8.2%	22,677	+1,409	+6.2%
インタープライズソリューション	36,701	32,995	+3,706	+11.2%	35,879	+822	+2.3%
ビジネス系	14,934	12,736	+2,198	+17.3%	14,458	+476	+3.3%
エンジニアリング系	21,766	20,259	+1,507	+7.4%	21,420	+346	+1.6%
コミュニケーションIT	17,480	18,712	▲1,232	▲6.6%	17,643	▲163	▲0.9%

- 金融** メガバンク向け海外拠点システム、市場系システム等の開発、ならびに新日銀ネット第2段階対応の決済管理ソリューション「Stream-R」のライセンス販売が拡大
- ビジネス系** 人事管理ソリューション「POSITIVE」および基幹システムの大型案件を中心に拡大
- エンジニアリング系** MBDの導入を支援するコンサルおよび構想設計ソリューション「iQUAVIS」が自動車業界向けに拡大したことに加え、製品ライフサイクル管理ソリューション「Teamcenter」が社会インフラ・エネルギー関連業界向けを中心に拡大
- コミュニケーションIT** 電通向け基幹システム構築案件が前期に比べアウト

MBD…モデルベース開発。自動車業界をはじめ製造業で導入が進む革新的なものづくり手法。



## (4) サービス品目別 連結売上高

(単位：百万円)

サービス品目	2015年3月期	前期との比較			＜参考＞2014/5/12発表予想との比較		
		前期	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	3,860	3,136	+724	+23.1%	3,359	+501	+14.9%
受託システム開発	23,072	23,891	▲819	▲3.4%	21,893	+1,179	+5.4%
ソフトウェア製品	13,438	11,009	+2,429	+22.1%	15,241	▲1,803	▲11.8%
ソフトウェア商品	22,728	22,258	+470	+2.1%	22,717	+11	+0.0%
アウトソーシング運用保守	7,541	6,855	+686	+10.0%	7,144	+397	+5.6%
情報機器販売他	7,625	6,818	+807	+11.8%	5,843	+1,782	+30.5%

コンсалティング MBDの導入を支援するサービスが主として自動車業界向けに拡大  
 受託システム開発 かんバンや製造業向けが拡大したものの、電通向けが前期に比べてアウト  
 ソーシング運用保守 「Stream-R」、「POSITIVE」、「STRAVIS」、「iQUAVIS」、「iPLAss」等が拡大  
 ソフトウェア商品 「Teamcenter」中心に設計開発分野向けソフトが堅調に推移  
 ソフトウェア製品 電通グループ向けが堅調に推移  
 情報機器販売他 主要顧客向け中心に拡大

「STRAVIS」…連結会計ソリューション 「iPLAss」…マーケティング・プラットフォーム

## (5) 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2014年4月～ 2015年3月	2013年4月～ 2014年3月	増減	主な増減要因(対前連結会計年度末)
営業活動による キャッシュ・フロー	8,776	5,705	+3,071	事業構造改善費用の計上 (+1,265)、売上債権の減少 (+947)、仕入債務の増加 (+920)、減価償却費の増加 (+828)、未払消費税等の増加 (+667)、法人税等の支払の増加 (▲765)、税金等調整前当期純利益の減少 (▲615) 等
投資活動による キャッシュ・フロー	▲2,583	▲2,824	+241	無形固定資産の取得による支出の減少 (+309) 等
財務活動による キャッシュ・フロー	▲1,729	▲1,696	▲33	配当金の支払の増加 (▲130) リース債務の返済による支出の減少 (+97)
現金及び現金同等物に 係る換算差額	400	205	+195	
現金及び現金同等物の 増減額 (▲は減少)	4,864	1,390	+3,474	
現金及び現金同等物の 期首残高	12,849	11,459	+1,390	
現金及び現金同等物の 期末残高	17,714	12,849	+4,864	

## (6) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2015年 3月31日	2014年 3月31日	増減	主な増減要因(対前連結会計年度末)
流動資産	46,699	40,287	+6,412	現金及び現金同等物の増加(+4,864)、有価証券の増加(+700)、未収入金の増加(+635)
固定資産	15,629	18,590	▲2,961	データセンターのサービス終了に伴う固定資産減損処理(▲988)、投資有価証券の減少(▲1,360)、ソフトウェアの減少(▲712)
資産合計	62,328	58,877	+3,451	
流動負債	19,481	17,387	+2,094	未払法人税等の増加(+712)、未払消費税等の増加(+685)、前受金の増加(+485)
固定負債	2,347	2,625	▲278	繰延税金負債の減少(▲340)
負債合計	21,829	20,013	+1,816	
純資産合計	40,499	38,864	+1,635	当期純利益の計上(+2,166)、剰余金の配当(▲781)、為替変動等によるその他の包括利益累計額の増加(+249)
負債純資産合計	62,328	58,877	+3,451	

- 11 -

## (7) 受注・受注残高

(単位：百万円)

	受注高		受注残高		
	2015年3月期	前期比	2015年3月期	前期比	
合計	39,089	+9.4%	6,868	+19.2%	
事業セグメント別 内訳	金融ソリューション	17,647	+4.3%	2,705	▲12.3%
	インタープライスソリューション	13,257	+37.4%	2,750	+79.6%
	コミュニケーションIT	8,184	▲10.8%	1,412	+22.9%
サービス品目別 内訳	受託システム開発	23,586	+6.1%	3,846	+15.5%
	ソフトウェア製品外販開発	7,830	+28.9%	1,938	+30.1%
	ソフトウェア商品外販開発	7,671	+3.0%	1,084	+15.1%

受注・受注残は、当社のサービス品目のうち、受託システム開発、ソフトウェア製品およびソフトウェア商品の外販開発のみが対象です。コンサルティングサービス、ソフトウェア製品・商品のライセンス、ライセンス保守、アウトソーシング・運用保守サービス、情報機器等は含まれておりません。

- 12 -

## 2015年12月期業績予想

※2015年度における変更点

- 決算期変更：2015年度は4月1日～12月31日までの9ヶ月決算
- セグメント分割：インタープライズソリューションを、「ビジネスソリューション」と「エンジニアリングソリューション」に分割

## (8)2015年12月期 連結業績予想

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	通期 (4-12月)	前期との比較			上期 (4-9月)	前期との比較		
		前期実績 (4-12月)	増減額	増減率		前期実績	増減額	増減率
売上高	54,714	53,795	+919	+1.7%	36,787	35,823	+964	+2.7%
営業利益	1,265	1,073	+192	+17.9%	1,045	872	+173	+19.8%
営業利益率	2.3%	2.0%	+0.3p	-	2.8%	2.4%	+0.4p	-
経常利益	1,370	1,266	+104	+8.2%	1,107	981	+126	+12.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	846	674	+172	+25.5%	686	534	+152	+28.5%

売上高

金融ソリューション、エンジニアリングソリューションの拡大により増収を見込む

営業利益

円安による原価増（6.8億円※）ならびに人件費/研究開発費を中心とした販売費及び一般管理費の増加を、増収および売上総利益率の改善により吸収し、増益を目標

※平均原価計上レト：2014年4～12月実績102.5円/\$ → 2015年4～12月計画120円/\$

# 2015年12月期 連結業績予想 (セグメント別)

(単位: 百万円)

(単位: 百万円)

	通期 (4-12月)	前期との比較		
		前期実績 (4-12月)	増減額	増減率
金融ソリューション	17,895	17,281	+614	+3.6%
ビジネスソリューション	10,155	10,578	▲423	▲4.0%
エンジニアリング	14,852	14,079	+773	+5.5%
コミュニケーションIT	11,811	11,855	▲44	▲0.4%
合計	54,714	53,795	+919	+1.7%

	上期 (4-9月)	前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率
金融ソリューション	11,496	10,738	+758	+7.1%
ビジネスソリューション	6,567	6,896	▲329	▲4.8%
エンジニアリング	10,656	9,934	+722	+7.3%
コミュニケーションIT	8,067	8,254	▲187	▲2.3%
合計	36,787	35,823	+964	+2.7%

金融  
ビジネス  
エンジニアリング  
コミュニケーションIT

金融ソリューションは、銀行向け受託システム開発、次世代融資ソリューション「BANK・R」の拡大  
 ビジネスソリューションは、「POSITIVE」「STRAVIS」の拡大を目指すも、大型案件の反動減を見込む  
 エンジニアリングは、自動車業界にフォーカスする「オートモティブ事業部」を4月に新設し、「iQUAVIS」を  
 差別化の軸として、自動車完成車メーカー向けを中心に拡大を目指す  
 コミュニケーションITは、基幹システム構築の反動減が一部残るものの、電通協業の拡大により前年並みを目指す

# 2015年12月期 連結業績予想 (サービス品目別)

(百万円)

(百万円)

	通期 (4-12月)	前期との比較		
		前期実績 (4-12月)	増減額	増減率
コンサルティング	2,440	2,242	+198	+8.8%
受託システム開発	17,789	15,935	+1,854	+11.6%
ソフトウェア製品	9,530	9,298	+232	+2.5%
ソフトウェア商品	16,069	15,349	+720	+4.7%
アウトソーシング・ 運用保守サービス	4,686	5,287	▲601	▲11.4%
情報機器・その他	4,196	5,681	▲1,485	▲26.1%
合計	54,714	53,795	+919	+1.7%

	上期 (4-9月)	前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率
コンサルティング	1,765	1,633	+132	+8.1%
受託システム開発	11,556	10,669	+887	+8.3%
ソフトウェア製品	6,348	5,750	+598	+10.4%
ソフトウェア商品	11,189	10,610	+579	+5.5%
アウトソーシング・ 運用保守サービス	2,956	3,509	▲553	▲15.8%
情報機器・その他	2,972	3,649	▲677	▲18.6%
合計	36,787	35,823	+964	+2.7%



## 【参考】12ヶ月ベース比較

- 2015年12月期業績予想（4-12月）に、2015年1-3月実績を加えて算出
- 2014年も同様に組換え、比較

(単位：百万円)

	2015年 1~3月実績 + 4-12月予想	2014年 1~12月実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	79,186	77,153	+2,033	+2.6%
営業利益	4,671	4,163	+508	+12.2%
営業利益率	5.9%	5.4%	+0.5p	-
経常利益	5,070	4,449	+621	+14.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,338	2,576	▲238	▲9.2%

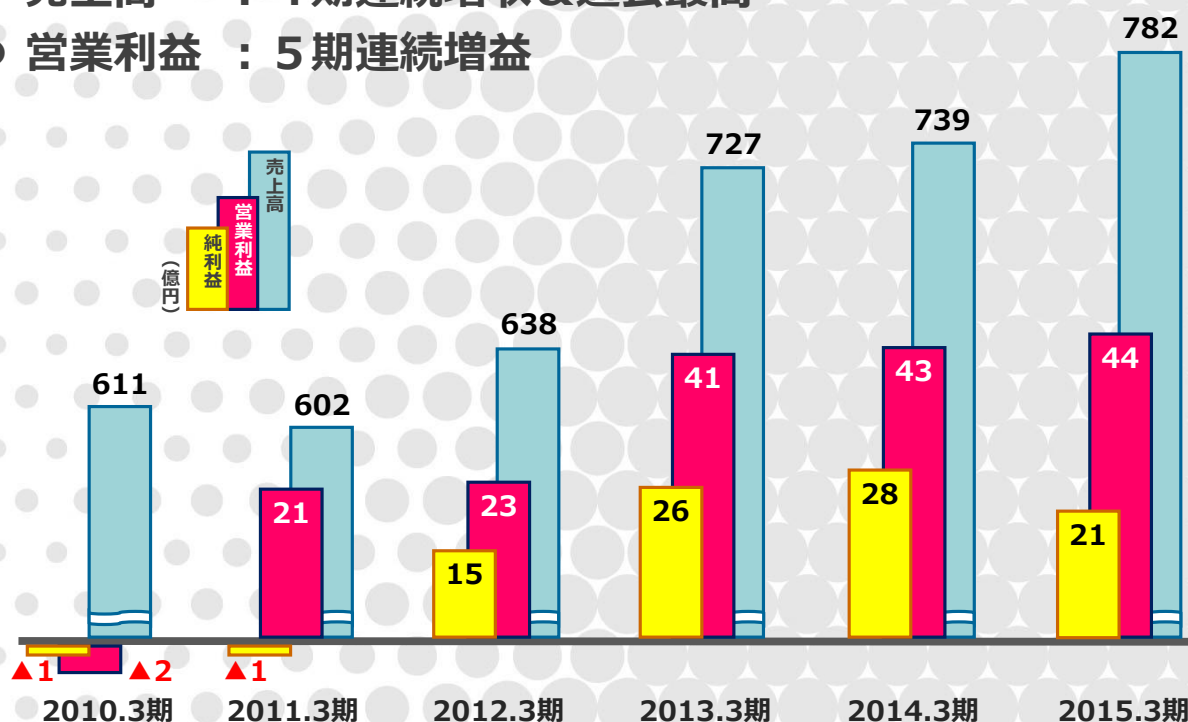
売上高は増収かつ過去最高水準、営業利益・当期純利益は増益。  
一方、当期純利益は2015年3月に特別損失を計上したため減益。

## 中期経営計画 進捗状況

ISID Open Innovation 2016 『価値協創』  
Progress to the Future

# 2015年3月期業績

- 売上高 : 4期連続増収 & 過去最高
- 営業利益 : 5期連続増益



# 株主還元

- 2015年3月期 : 年間配当金1株あたり26円 (前期比4円増配)
  - 2015年12月期 : 年間配当金1株あたり28円 (前期比2円増配)
- ※ **創立40周年**記念配当含む

	中間配当金 (1株当たり)	期末配当金 (1株当たり)	年間配当金 (1株当たり)	配当性向
2001年3月期~ 2013年3月期	10円	10円	20円	—
2014年3月期	10円	12円	22円	25.0%
2015年3月期	12円	14円	26円	39.1%
2015年12月期 <予想> ※	14円	14円 (うち7円は40周年記念配)	28円	107.8%

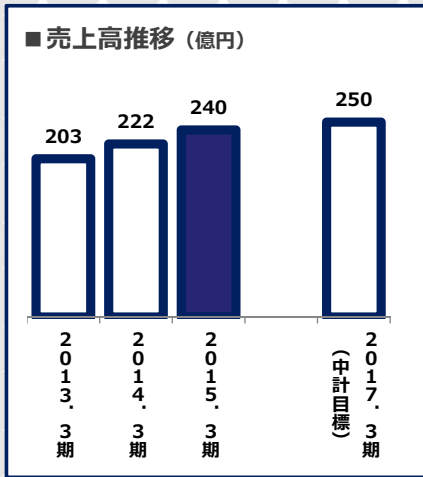
※ 2015年12月期は  
9ヶ月決算

## ISiD Open Innovation 2016 価値協創 Progress to the Future

対象期間	業績目標
2014年4月～2017年3月	2017年3月期 売上高 850億円 営業利益 60億円 営業利益率 7.1%
基本方針	
①競争優位性の追求 ②新たなビジネス領域の開拓 ③人材力強化	

中計戦略	<b>競争優位性の追求</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大手金融機関のグローバル展開や規制強化対応支援を拡大</li> <li>●決済システム更改や市場慣行整備に的確に対応</li> <li>●地域金融機関の業務改革の実現を積極的に支援</li> </ul>
	<b>新ビジネス領域の開拓</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビッグデータやクラウドを活用した新しい金融サービスを創出</li> <li>●金融バンチャ等との連携から新規ビジネスを創出</li> </ul>

- 2014トピックス
- ◆ メガバンクの海外拠点システム、市場系システムの案件拡大
  - ◆ 決済管理ソリューション「Stream-R」  
～新日銀ネット第2段階対応バージョンを2014年9月末にリリース
  - ◆ 次世代融資ソリューション「BANK・R」  
～大型案件受注（2015年4月導入開始）
  - ◆ Web接客ソリューション「LiveEngage」  
～メガバンクをはじめ複数の金融機関向けにサービス提供開始
  - ◆ 金融イノベーションビジネスカンファレンス「FIBC2015」  
～Fintech分野に特化したイベント開催（4回目）



# 2014年度トピックス～インタープライズソリューション

中計戦略

## 競争優位性の追求

- 自動車業界におけるMBDソリューション領域のNO.1ポジションになる
- ものづくり革新支援のグローバル展開(日本含むアジア地域)
- グローバル・外注マネジメント・ソリューション強化
- 会計、原価・生産管理系ソリューション強化

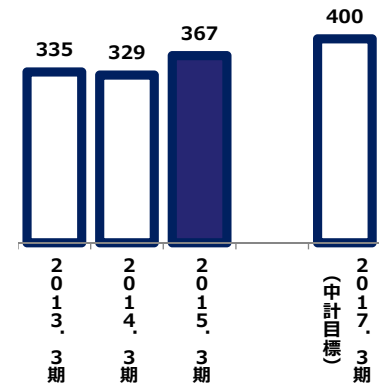
## 新ビジネス領域の開拓

- 製造業の設備保全、故障予測領域等ビッグデータによる新ビジネス創出
- ライザイン分野における新たなビジネスの創出

2014トピックス

- ◆ ISIDIエンジニアリング 設立 (7/1)
- ◆ MBD導入を支援する構想設計ソリューション「iQUAVIS」  
～大規模開発に対応したVer3.0リリース、大手自動車の導入加速
- ◆ プロダクトライフサイクル管理(PLM)ソリューション「Teamcenter」  
～社会インフラ・エネルギー関連業界向けに導入拡大
- ◆ 人事管理ソリューション「POSITIVE」  
～外注マネジメント機能をリリース・さらにマイナンバー制度の対応機能も強化
- ◆ 連結会計ソリューション「STRAVIS」  
～大手企業中心に国際会計基準(IFRS)対応案件増加

■売上高推移(億円)



# 2014年度トピックス～コミュニケーションIT

中計戦略

## 競争優位性の追求

- 電通協業のさらなる加速  
(「公共」「CRM」「街ビジネス」等の領域で協業を加速)
- 電通グループの基幹システムのさらなる高度化を支援

## 新ビジネス領域の開拓

- マーケティング系ビッグデータを活用し、電通と協業で新ビジネス領域を開拓
- 私チャネル、アドテクノロジー分野での事業創出
- 映像ソリューションを活用したスポーツ関連ビジネスの開拓
- 電通協業モデルの海外ロールアウト推進

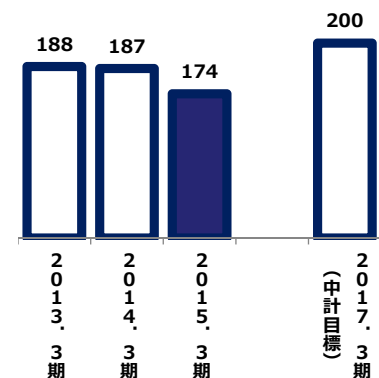
2014トピックス

- ◆ 電通協業  
～提案力強化のため、技術部門の体制拡充

	2014.3期実績	2015.3期実績	2015.12期計画(9ヶ月)
電通協業売上	52億円	51億円	40億円 前年同期比+25%

- ◆ 電通グループの基幹システムの高度化支援  
～電通グループ向け新業務支援システムの開発がスタート
- ◆ 「2020テクノロジー&ビジネス開発室」新設  
(2015年4月より直轄組織化)

■売上高推移(億円)

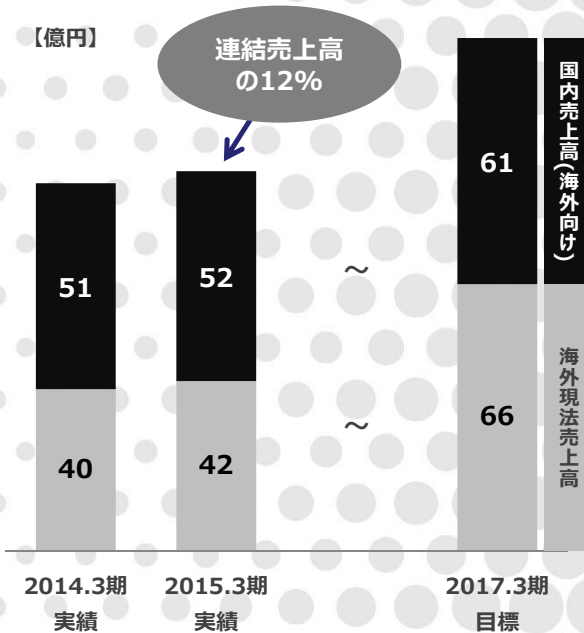




# 2014年度トックス〜グローバル市場の開拓〜

**中計戦略**

中国・ASEAN地域を中心に、日系顧客に加えて、非日系顧客市場にもビジネスを拡大



● **最近の主な受注案件**

- 当局報告システム開発/中国大手銀行 (iSiD香港)
- VOC分析サービス/日系製造業 (iSiDシンガポール)
- ものづくりソリューション/日系製造業 (iSiDタイ、iSiDインドネシア、iSiD上海)
- O2Oプラットフォーム「+fooop! connect」/中国大手不動産デベロッパー (iSiD上海)

VOC : Voice of Customer  
O2O : Online to Offline

# 2015年度の環境認識

**社会環境**

- 人口減少・少子高齢化、環境規制など課題山積 ~課題“解決”先進国にはITが不可欠
- 2020年に向け、大規模な都市開発や新事業創出が活発化 ~社会課題を解決していく機会として期待

**経済環境**

- 地政学リスク、原油価格下落、中国など新興国の成長鈍化等、世界経済は不確実性が増す
- 国内経済は雇用・所得環境の改善傾向が続き、回復基調~地域や中小事業者も含めた経済の好循環に向け政策推進が本格化

**顧客企業環境**

- 企業は自社の競争力を高める分野への“攻めのIT投資”を強化
- 特に製品開発・マーケティング・グローバル化領域のイノベーションを目指すIT投資活発化

**技術環境**

- IoTが急速に進展
- Industry4.0をはじめ、ビッグデータを活用した社会の大変革が起こりつつある

# 2015年度の注力領域

- 中期経営計画「3つの基本方針」は継続
- さらに3点の領域に注力



# 2015年4月組織改編

旧

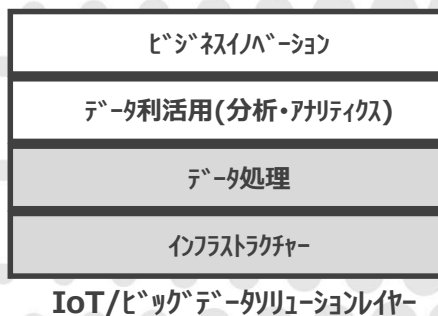
新 (2015/4/1~)



## IoT/ビッグデータ領域の新規事業開発を加速

### ● 事業開発機能強化

- 戦略ビジネス推進本部新設（4月）  
～IoT/ビッグデータ領域における事業開発を全社横断で推進  
～マーケティング、ものづくり等の領域で、ビッグデータの利活用による付加価値の提供に注力



### ● 主な取り組み

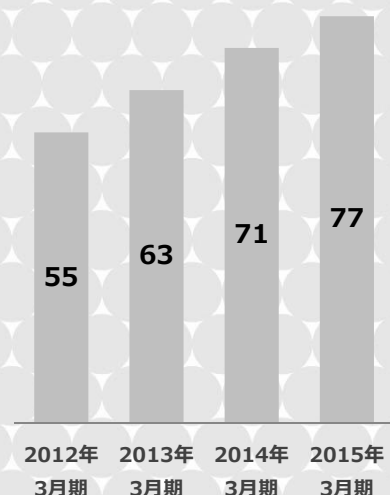
- 製造業向け予知保全ソリューション推進  
～予知保全領域の世界的権威Dr. Leeのフレディクトロクス社と資本業務提携  
～自動車、農機、工作機械等へ導入・高評価
- 運輸・サービス会社向け各種予測モデル構築
- ネット銀行向けマーケティングサービス提供
- (株)UBICと人工知能を用いた新サービス開発
- IoTインフラ『SynapSensor』市場投入

## ものづくり革新を加速する自動車業界へのソリューション提供体制を拡充

### ● グローバル競争力向上の支援強化

- オートモティブ事業部新設（4月）  
～Industry4.0、自動運転、高度道路交通システム(ITS)など新しいテーマにおける活発な研究開発の動きに積極的に対応
- 自動車OEMをコアとした産官学連携への継続的関与  
～自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）  
～内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）  
～ALL JAPAN PTコンソーシアム

自動車業界の主要顧客向け  
単体売上高（億円）



### ● MBD導入のコアソリューション「iQUAVIS」の更なる強化継続

- 製品開発投資の積極拡大  
～パートナーとも連携し、iQUAVISをコアとした統合ソリューション開発・提供



## 2020年とその後を見据えた企業や自治体の活動に積極的に対応

### ● 2020テクノロジー&ビジネス開発室の体制強化

- 直轄組織へと改編（4月）
- オープンイノベーションホを配下に設置  
～イノホが築き上げたブランド力とノウハウを生かし、「街づくり」「映像」「観光」「スポーツ」の領域に集中

### ● スポーツ&ライフテクノロジーラボの活動加速

- ユーザーインターフェース研究の世界的権威、  
東京大学暦本教授をシニアフェローとして招聘  
～産学連携プロジェクト立上げ



スポーツを軸に地域コミュニティの形成・活性化を目指す参加型実験イベント「エアリスポ!」ホスター

## 中期経営計画の決算期変更対応について

- 2016年1月からの3カ年を対象とする新中計の策定開始
- 2016年2月に発表予定

**ISID Open Innovation 2016**

『価値協創』

**Progress to the Future**



# 主要プレスリリース＜2014年11月～2015年4月＞

## 金融ソリューションセグメント

- 11/14 国債決済照合ファイル授受サービス「SFX」を提供開始
- 12/2 「金融イノベーションビジネスカンファレンスFIBC2015」の開催を決定
- 12/10 十六銀行の統合人事システムを構築
- 2/27 「金融イノベーションビジネスカンファレンスFIBC2015」の受賞サービスを発表
- 3/13 新銀行東京の事業性評価による融資推進をITで支援

## エンタープライズソリューションセグメント

- 11/11 米国NextDocs社と医薬品／医療機器製造業向けドキュメント管理ソリューション分野で提携
- 1/30 「iQUAVIS」のモデルベース開発（MBD）支援機能を大幅拡張
- 3/12 「POSITIVE」のタレントマネジメント機能を大幅拡充
- 4/15 ISiDとISiDビジネスコンサルティング、マイナンバー制度対応ソリューションの提供を開始

## コミュニケーションITセグメント

- 3/31 ISiDとUBIC、人工知能を用いたデジタルキュレーションサービスの共同開発に着手

## クラウド・オープンイノベーション研究所・他

- 11/6 訪日客の観光をより快適にする統合ICカードシステムの実証実験を実施
- 11/28 新組織「2020テクノロジー&ビジネス開発室」を設置
- 1/28 金融機関向けクラウドサービス対応セキュリティリファレンスの公開
- 2/13 大崎駅周辺のオフィスワーカーと住民が日々の運動でチームバトル！
- 4/16 新興国での社員貢献を通じたグローバル人材育成プログラムを導入